

<https://blog.goo.ne.jp/ivelove/e/198b17c8a0d9efc2b4f8fc9c445b73d4>

<北海道>色丹島で戦後初めてアイヌ伝統儀式による慰霊

2019-05-30 | アイヌ民族関連

HTB 5/29(水) 19:18 配信

27日に戻った色丹島へのビザなし交流では、いつもとは少し違う光景がありました。色丹島の日本人墓地にあるアイヌ民族の墓の前で戦後初めて、アイヌ様式の供養が行われました。

今月25日、色丹島に到着したビザなし訪問団。現地では2日間、ロシア人住民との交流や墓参が行われました。その墓参に特別な思いを持った人がいました。札幌アイヌ協会の多原良子さんです。色丹島に千島列島に住んでいたアイヌ民族の墓があると聞いて、初めて訪問団に参加しました。多原さんは「アイヌの御霊にお参りをきょうここまで来て、できて嬉しい」と話しました。

多原さんを墓まで案内したのは元島民の石井守さん(75)です。3歳まで色丹島で暮らした元島民で、島を訪れるたびに千島アイヌの墓地も慰霊してきました。

石井さんは「昔アイヌがあったんだわ、神社の横に長屋、そこに23、4人いたかな。一番端の方で私の親が育てられた」と多原さんに伝えました。

石井さんの父、徳雄さんを養子として育てたのは、千島アイヌの夫婦です。千島列島に住むアイヌの人々は、明治政府によって色丹島に強制移住させられた歴史があります。父親の徳雄さんも、生前、墓参団に参加し、千島アイヌへの感謝の思いから、島を訪れるたびに手を合わせてきました。その話を聞いた多原さんは「まさか石井さんのお父さんがアイヌに育てられて、そこにコタンがあったなんて考えてもみなかったし、クリルの墓があると聞いてお参りできてよかった」と話しました。

戦後74年、過去の墓参でアイヌ様式による供養が行われたという記録は残っていません。多原さんは、石井さんにもゆかりのある千島アイヌの墓前で「メノコイチャルパ」、先祖への祈りを捧げました。

<https://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20190529-00000014-htbv-hok>

アイヌ民族関連報道クリップ

<https://blog.goo.ne.jp/ainunews/e/ed0f4890c83683788cabf040d5789f5e>

ロシアに初のアイヌ民族団体 カムチャツカの12人(北海道新聞)

2008-04-02 08:26:00 | アイヌ民族関連

ロシアに初のアイヌ民族団体 カムチャツカの12人(04/02 08:26)

【ユジノサハリンスク1日津野慶】ロシア・カムチャツカ地方でアイヌ民族を名乗る住民十二人が民間団体「アイヌ」を設立、ロシア政府に先住民族としての認定を求める文書を一日までに、同地方議会を通じて提出した。十二人は旧ソ連時代、サハリンなどからカムチャツカへ強制移住させられたと主張。道内のアイヌ民族関係者との交流も望んでいる。

アイヌ民族の団体設立はロシア初とみられる。代表はペトロパブロフスクカムチャツキー市の建設会社社長アレクセイ・ナカムラさん(42)。これまで迫害を恐れてアイヌ民族を名乗ることはなかったが、伝統の消滅を恐れ、同じ境遇の仲間と団体を設立したという。

戦前、サハリンなどに居住していたアイヌ民族は終戦当時、旧ソ連によって「日本人」として扱われ、大半が北海道などに渡ったとされる。このため旧ソ連、ロシア政府はこれまで、先住少数民族としてのアイヌ民族の存在を、公式には認めていなかった。

ナカムラ代表は日本名オシロー、父の名はケイゾウ。終戦まで日本領だったサハリン南部の泊居(トマリ)や大泊(コルサコフ)に住んでいたが一九六八年、カムチャツカ地方北部の集落に強制的に移された。「日本の姓を名乗り続けたのが原因ではないか」という。

会員には、千島列島出身で、戦争中に旧ソ連軍の捕虜になりカムチャツカに送られた「スズキ」姓の人もいる。

両親の出生証明書などの文書がなく、認定の手続きは難航している。活動を支援するカムチャツカ地方議会のタチャーナ・ロマーノワ先住少数民族担当委員長は「サハリン州議会にも協力を求めた」と話す。ナカムラ代表は、漁労を中心としたアイヌ民族の居住地「コタン」の再生を目指し「北海道のアイヌ文化にも学びたい」と話す。

札幌大文化学部の川上淳准教授(北方・千島史)は「アイヌ民族がカムチャツカに強制移住させられたという話は初めて聞いた。旧ソ連時代の情報は少なく証明は難しいが、日本名を名乗っている点など信頼性はあると思う」と話している。